

象徴されています。これらは「京都の自然 200 選」（京都府）にも指定されています。

ゲンジボタルの生息数の安定には、周辺の夜間照明、疏水護岸の改修方法、サクラ並木を含む緑地の確保等の工夫が必須であり、キマダラルリツバメは、サクラの古木に営巣するハリブトシリアゲアリと共生しているため、どちらもサクラ並木の保全が存続の「鍵」となっています。しかし、道の「整備事業」においては、どのような工法を選択しても、サクラ並木への影響は排除できません。極力影響のない方法を検討する必要があります。

自然と調和した道の環境こそが「哲学の道」らしさであり、その素晴らしさは、地域住民だけでなく、広く全国、そして世界的にも認知されています。引き続き、生物多様性が保たれていくよう、一層の対策が望まれるところです。

「哲学の道」が、親しまれる散策路であるだけでなく、生きものの回廊でもあることには、地域住民が一体となって守り育ててきたことも大きく貢献していると考えます。

日頃から京都市では、「京都市環境基本計画」に沿って環境共生を目指す施策を実践されており、私たち市民もその恩恵にあずかっております。また、ここ数年の危険な暑さをもたらす気候変動が問題になっている現在、緑被率を高め、ヒートアイランド現象を回避することは、動植物を守るだけでなく、沿道住民の生活を守る観点からも重要となっています。

以上に鑑み、「哲学の道」の整備事業につきまして、下記のとおり要望いたします（なお、関係資料を添付いたします）。